

中学2年・英語、オンライン学習、ハイブリッド学習 「比較級と最上級」

ベトナム・ハノイ日本人学校

I 前提

学校環境

使用しているインターネット回線は不安定で、ICT 機器も老朽化している中、授業中にクラス全員が同時に Wi-Fi に接続してインターネットを使用することが困難な状況にあった。また、小学部各教室や特別教室には TV 等が整備されておらず、登校できない児童生徒も一体となってオンライン授業を実施していくには環境が整っていなかった。2020 年度の ICT を活用した教育体制構築に関する実証事業において、TV モニター、インターネット環境、iPad 等、様々な IT 関連機器の整備を行ったことによりオンライン授業やハイブリッド型授業などへの対応が可能となった。

課題と目標

<オンライン授業・ハイブリッド型授業に対応>

平常時より iPad 等のタブレット端末、Apple TV、アプリケーション（Google Classroom・Google Meet・Google ドキュメント・Excel・PowerPoint 等）を組み合わせ活用し、非常時に備えて児童生徒がどこにいても授業に参加できるようにする。

<本授業における目標>

- » 比較級・最上級を使って、自分の興味関心のあるテーマについてインタビューし、積極的にデータを集めることができる。（関心・意欲・態度）
- » インタビューの調査結果について、比較級・最上級を使って発表することができる。（目標）

2 実践の内容

活用した ICT ツール

- » AppleTV
- » iPad
- » Microsoft Excel
- » Google Classroom ※非常時は Google Meet なども活用

具体的な活用方法

<平常時>

教師が Google Classroom 上に課題を配布（紙ベースも併せて）



生徒は iPad の Excel を用いて、結果をグラフ化させ、iPad のミラーリング機能を用いて、教室のスクリーンに投影し発表する。

<非常時>

Google Meet で授業を配信し、Google アプリケーションを組み合わせ活用することにより、教室に来ることができない生徒も教室の授業と同様にインタビュー活動やプレゼンテーション準備、調査結果のグラフを共有しながらプレゼンテーションを実施することができる。

<本授業展開>

- ① 紙ベースと Google Classroom（オンライン）の2つの方法で本時の課題を配布した。
- ② 生徒は各自の iPad で課題を確認し、英語でインタビュー活動を行った。生徒には、紙ベースはもちろん、Google ドキュメントを用いてインタビューの準備や調査結果の記録をとった。
- ③ 生徒は集まった回答を Excel に入力し、グラフ化した。そのグラフを iPad のミラーリング機能を用いてスクリーンに投影し、学級の回答状況を比較級・最上級を用いながら発表した。
- ④ 非常時は、上記の活動をテレビ会議 Google Meet で配信することができる。
- ⑤ 生徒は自分にあった課題解決方法を選択し、課題に取り組んだ。平常時であったが、オンラインで課題に取り組む生徒が多かった。タブレット端末を日常的に授業で活用しているため、端末操作の指導等で時間を要することはほとんどなくなった。

図1：生徒がインタビュー活動で使用するオリジナルの英文を Google ドキュメントに入力している。

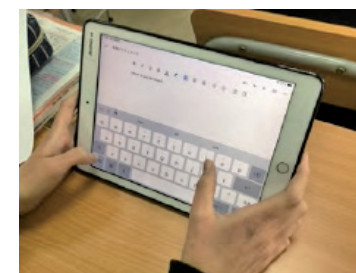


図1 インタビュー活動準備の様子

図2：iPad を記録媒体として活用しインタビュー活動に取り組んでいる。



図2 インタビュー活動の様子

図3：生徒がインタビューで集めた回答をもとに、Excel のグラフ機能を用いてプレゼンテーションの資料を準備している。

※ 発表原稿についてはライティングスキル育成の観点から、ワークシート等へ直接書くように指示。

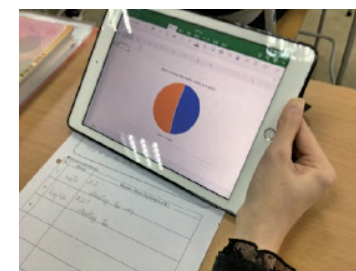


図3 調査結果をグラフ化している様子

図4は、教室に整備してある Apple TV と各自の iPad をミラーリング機能で接続し、プレゼンテーションで使用するグラフをスクリーンに投影している様子である。

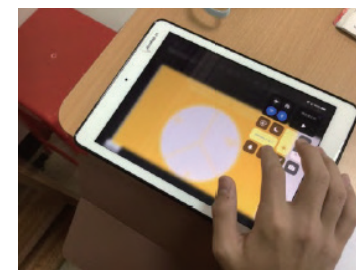


図4 プレゼンテーション準備の様子

3 成 果

ICT ツールを活用したことでできるようになったこと

教室の Apple TV と生徒の iPad を接続することで iPad の画面を瞬時に学級全体で共有することが可能となり、グラフの可視化が生徒の理解を深めることにつながる。

また、平常時より ICT 機器を活用した授業を行っていることで生徒は使い方に慣れており、非常時にオンライン授業またはハイブリッド型授業になった場合でも不自由なく移行させることができる。

なお、非常時は、テレビ会議 Google Meet で授業を配信し、Google アプリケーションを組み合わせて活用することにより、教室に来ることができない生徒も教室の授業と同様にインタビュー活動やプレゼンテーション準備、調査結果のグラフを共有しながらプレゼンテーションを実施することができる。

児童生徒、教師、保護者の反応

<生徒>

» 電子機器を効果的に活用することで、情報を共有する機会が増えた。比較級・最上級の表現に触れる機会が増え、理解が深まったように思う。

<教師>

- » 様々な機器やアプリケーションを場面に応じて使い分けることになり、操作面で教師側のトレーニングが必須である。
⇒ 長期休みなどを利用して外部講師を招いて講習を行うことや、教師間で操作方法や授業での活用方法に関する情報を定期的に共有することが望ましい。
- » 通常授業とオンライン授業を同時に実施することになり、担当教師一人では生徒全体の掌握が難しいので複数教師体制で授業を実施できると良い。